

第3回 高品位介護シンポジウム

～介護と伝統文化との取り組み～

開催：平成25年11月29日（金）会場：池坊会館2階ホール
開場：12：00 開会：13：00 参加費：4,000円



基調講演

華道家元池坊 次期家元 池坊由紀
「心のかよい～いけばなより～」

同時開催

一般講演・ポスター発表および介護・福祉機器展示

お問い合わせ

第3回高品位介護シンポジウム実行委員会

住所：〒574-8530 大阪府大東市中垣内3丁目1-1

大阪産業大学デザイン工学部情報システム学科後藤研究室内

TEL：072-875-3001（内線7630）FAX：072-870-1401 E-mail：gotoh@ise.osaka-sandai.ac.jp

主催：京都工芸繊維大学伝統みらい教育研究センター

第3回高品位介護シンポジウム開催にあたって

高齢者が多く存在する社会に突入した我が国において、介護は重要なキーワードであり、我々の生活に、そして将来に自らが抱える問題として関心が高いものである。

伝統みらい教育研究センターでは、京の匠のものづくりを知って、それを現代のものづくりに応用することを目的として、様々な解析を多くの協力を得て行ってきた。その活動の中で、得た言葉、匠の技の先に見える、製品に現れるものは、高品位であった。京の匠が産み出す工芸品は、総じて高品位製品と呼ぶことができると確信している。したがってものづくりに閉塞感の漂う日本においては、高品位製品を生み出すことが肝要であるという指針を得ることができた。

この高品位を、その他の分野に応用していこうとする活動を始めた。高品位なサービス、高品位な輸送などものづくり以外への応用を考えることとなった。その一つが介護である。高品位介護という何を想像し、何を求めることなのかの論議を長時間かけて行ってきた。一つの答えが、介護するものが疲れないこと、しかしそれを機械に頼って達成するのではなく、通常の人々の温かみが伝わる方法を維持したままに行うことであった。それらの成果の報告も踏まえて、高品位介護とは何なのか、どこを目指すのか、を多くの関係者と論議をしたい。これが本シンポジウム開催の動機である。

今回、第3回シンポジウムの開催にあたり、ものづくり文化としての伝統産業における匠の技（テクノロジー）とおもてなし文化としてのひとを思いやる心（サービス）の両者をもとに、よりよい介護の在り方、あるいは新たな介護の在り方を見出すことができればと考えるしだいである。

第3回高品位介護シンポジウム実行委員長・大阪産業大学デザイン工学部教授 後藤 彰彦

第3回高品位介護シンポジウム プログラム

- 12:00 開場
- 13:00 開会挨拶
- 13:05 基調講演「心のかよひ～いけばなより～」
第3回高品位介護シンポジウム実行委員長
大阪産業大学デザイン工学部 教授 後藤 彰彦
華道家元池坊 次期家元 池坊 由紀
- 14:05 休憩
- 14:30 「アソカ園における高品位看取り介護」
社会福祉法人すいよう会 特別養護老人ホーム アソカ園 主任 石井 由紀子
- 14:50 「よりよい介護に向けた音の活用について」
電気通信大学大学院情報システム学研究科 助教 饗庭 絵里子
- 15:10 「高齢者施設で実施するカラー筆ペンを用いた塗り絵レクリエーション」
株式会社 soliton corporation 川畑 慎一郎
- 15:30 「高品位介護推進のための方策」
特定非営利活動法人伝統みらい 監事 太田 智子
- 15:50 次回開催地紹介
京都工芸繊維大学大学院 准教授 桑原 教彰
- 16:00 ポスター発表および介護・福祉機器展示
- 17:00 「給料の出る仕事ができるデイサービス」
社会福祉法人丹後福祉会 高齢者総合福祉施設 丹後園 総施設長 山下 徹
- 17:20 閉会挨拶
第3回高品位介護シンポジウム実行副委員長
新居浜工業高等専門学校機械工学科 教授 吉川 貴士
- 18:00 懇親会

会場アクセス

地下鉄烏丸線・東西線「烏丸御池」駅出口5番下車 徒歩3分
阪急「烏丸」駅・地下鉄烏丸線「四条」駅下車 徒歩7分
市バス「烏丸三条」下車 徒歩1分

